

「介護助手」養成事業による元気高齢者雇用について

～アンケートによる効果と課題～

滝原 典子¹⁾ 田村 和幸²⁾ 美原 恵里³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース 看護介護部

2) 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース 事務室

3) 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース 施設長

[背景・目的]2025年に向けた介護人材にかかる需給推計において介護人材不足が想定され、介護職員人員確保のための外国人雇用など様々な対策が施され、介護領域における人材の確保はわが国の喫緊の課題である。当施設は、平成28年度から群馬県老人保健施設協会委託事業の「地域医療介護総合確保基金」の『元気な高齢者が支える高齢化社会モデル事業の「介護助手」養成事業』に参加し、2年が経過した。今回、本事業に参加した施設に対してのアンケート、および当施設で本事業に参加した高齢者と職員へのアンケートから雇用の効果と課題について報告する。なお、本研究は群馬県老人保健施設協会の同意を得て実施した。

[事業概要]本事業の目的は、地域の高齢者を対象に介護助手として働けるように育成し、職場の労働環境を整備することである。方法は、各地区の事業参加施設の周辺地域で、①応募チラシを配布し、②就労事前説明会、③就労マッチング面接会を実施。各参加施設において必要人数を雇用。事業期間は3ヶ月のOJT、給料は一律850円とした。

[対象・方法]1. 雇用側に対する調査 平成28年度および平成29年度に本事業に参加した群馬県内21施設に対し、マッチング面接人数、参加人数、最終雇用状況および終了時アンケートを実施。アンケート内容は、①総合的な評価②設定した時給の妥当性に対する満足度を3択の選択形式とした。2. 参加した本人の意識調査 平成28年度および平成29年度に当施設において本事業に参加した高齢者10人に対し独自で作成したアンケートを実施。アンケート内容は①参加してよかったか②職員は丁寧に指導してくれたか③業務内容は大変だったか④時給の設定はどうだったかの設問に対して、満足度を4択の選択形式とした。3. 受け入れた職員に対する調査 当施設の職員72人に対し、アンケートを実施。アンケート内容は①事業中、助かったことはあったか②事業中、困ったことはあったか③継続雇用したスタッフの優れている所はどこか④継

続雇用したスタッフの改善してほしい所はどこかの上記設問に対して多肢選択式とした。

[結果]1. 本事業の説明会に参加した高齢者は 260 人、就労マッチング面接を行った高齢者は 132 人、雇用された高齢者は 84 人、期間終了後正規雇用となった高齢者は 59 人と 70%が雇用となっていた。アンケート①は 21 施設すべてが「参加してよかった」と回答した。②は「高い」が 8 施設、「ちょうどよい」が 13 施設だった。2. ①は、全員が「よかった」と回答した。②は、「よくしてくれた」が 50%、「まあまあしてくれた」が 30%、「あまりしてくれなかった」が 20%だった。③「大変ではない」は 30%、「あまり大変ではない」が 20%、「まあまあ大変」が 40%、「大変」が 10%だった④は、「大変よい」が 60%、「まあまあよい」が 40%であった。3. ①で多かった回答は「業務の負担が減った」が 53%、「見守りをしてくれたので安心できた」が 37%であった。②は「3 ヶ月では何をしてもらえばよいか分からなかった」が最も多く 28.4%、次いで「マニュアルどおりに動いてくれなかった」13.4%であった。③は「働く姿勢」が 52%と最も多く、次いで「笑顔」45%、「謙虚さ」39%「傾聴の仕方」「声かけの仕方」が 28%だった。④は業務内容の拡大についての意見があったが、「特になし」が多数を占めていた。

[考察]1. 本事業に参加したどの施設も人材確保に悩んでいたが、老健協会の共同事業によって地域の元気な高齢者の呼び起こしに繋がり、各施設にとって人材確保のひとつのツールになり得たと思われる。また、試行的な雇用により 3 ヶ月の間に対象者の資質を見極めている。2. 参加者においては、介護助手の指導を受けながら賃金が得られることに満足していると推察される。しかし、施設における介護助手業務は、元気高齢者とはいえ、体力的な配慮が必要と思われた。3. 3 ヶ月という短期間であっても、現場職員にとって一時的な負担軽減になったと思われる。また、継続的に雇用された高齢者に関しては、各人の人柄にもよるが、特に若い職員たちにとって高齢者の働く姿勢や声かけなど見習うことが多く、現場の活性化に繋がったと推察される。今後のより良い運用のためには、高齢者の勤務日数、時間、健康管理などの配慮が必要であるとともに、指導方法の統一やマニュアルの整備が課題と思われた。

[まとめ]当施設は、平成 28 年度に群馬県老人保健施設協会とともに『元気な高齢者が支える高齢化社会モデル事業の「介護助手」養成事業』を立ち上げた。2 年経過した現在の雇用の効果と課題について検討した。その結果、雇用側にとっては人材確保のツールとして有用であり、参加した元気高齢者にとっても本事業に参加したことに満足感

が得られている。現場職員にとっては、指導方法の統一やマニュアル整備等の課題もあるが、人員確保により負担感が減り、元気高齢者の影響により、活性化につながっている。

本事業はこれからの介護人材確保に対する対策の一助となり得ると示唆される。